

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

平成31年4月号



【西牟婁振興局】4/24 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】  
～ウメの摘心処理講習会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



<b>I 海草振興局</b>	<b>1 - 3</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～普通温州の優良系統見本園を設置～	
2. 下津町農業士会総会及び研修会、意見交換会を開催	
3. 新規就農者研修（販売促進コース）を開催	
4. 種ショウガ生産者栽培説明会を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>4</b>
1. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が総会、研修会を開催	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5 - 6</b>
1. 伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催	
2. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会総会、研修会の開催	
3. 農業技術講習会野菜コースの開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>7 - 8</b>
1. 平成 31 年度有田地方農業士連絡協議会総会を開催	
2. 平成 31 年度有田地方 4 H クラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>9 - 10</b>
1. 平成 31 年度日高地方農業士会総代会及び研修会を開催	
2. 平成 31 年度日高地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催	
3. 平成 31 年度日高地方 4 H クラブ連絡協議会総会および 「農トレ！ひだか」第 1 回セミナーを開催	

- VI 西牟婁振興局** **11-13**
1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】  
～ウメの摘心処理講習会を開催～
  2. ヨモギ栽培実証展示園で収穫始まる
  3. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催
  4. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会が総会・研修会を開催
- VII 東牟婁振興局** **14-15**
1. 東牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催
  2. 三津ノ地域活性化協議会が田植え体験を開催
- VIII 農林大学校 農学部** **16-17**
1. 6次産業化を目指して～アグリビジネス学科で観光農園を開園～
  2. 平成31年度入学式
  3. 1年生が県内7ヶ所の試験研究機関で研修
- IX 経営支援課（農業革新支援センター）** **18**
1. 和歌山県農業士会連絡協議会が総代会・研修会を開催

# I 海草振興局

## 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

### ～普通温州の優良系統見本園を設置～

4月26日、農業水産振興課ではJAながみねと連携して、海南市下津町上地区に普通温州の優良系統見本園を設置した。当日は、農業水産振興課職員、JAながみね職員、園主の6名で、昨年度実施した貯蔵試験において浮皮が少なく有望と考えられる品種と対照品種の計8品種を3本ずつ植え付けた。

今後、JAながみねと協力しながら栽培管理を行い、下津みかんの主力である貯蔵みかんに適した品種の選定に活用していきたいと考えている。



一年生苗木を植え付け



優良系統見本園

## 2. 下津町農業士会総会及び研修会、意見交換会を開催

4月9日、下津町農業士会（稲田充弘会長）の平成31年度総会及び研修会、意見交換会が海南市立方集会所で開催された。当日は全会員19名の出席があり、総会では全ての議案が承認され、新会長に森岡利行氏が選出された。

続いて、研修会ではJAながみねしもつ営農生活センターの坂田寛樹係長から「下津町農業に期待すること」と題して、柑橘類の栽培を念頭に篤農家の栽培管理事例や剪定・施肥など基本的な作業の大切さ、後継者づくりのポイント等についてユーモアを交えた講演があった。講演終了後には会員から多数の質問が出され、大変有意義な研修会となった。

研修会終了後には、自家の農業経営で課題に思うことや若い人が働きやすい環境づくり、下津町農業士会での活動提案等について、3グループに分かれて意見交換が行われた。会員からは、「労働力が不足している」、「後継者がいない」等の課題に加え、「作業性の向上」、「明るい産地づくり」等の若い人が働きやすい環境づくりや、「会員同士の農作業や販売に関する意見交換会の開催」等活動の提案が出され、活発な意見交換会となった。

また、最後に農業水産振興課から重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】の一環で昨年度作成した、「下津の将来ビジョン」について説明し、今年度予定している実行計画の作成に向けて会員に協力を呼びかけた。



研修会



意見交換会

### 3. 新規就農者研修（販売促進コース）を開催

4月15日、和歌山市南コミュニティーセンターにおいて、和歌地方4Hクラブ連絡協議会（峯本和幸会長）と農業水産振興課共催で新規就農者研修を開催した。本研修会は新規就農者の栽培技術や経営力の向上を目指し、新規就農者同士や先輩農家との繋がりをすることを目的とし、実施している。4Hクラブ員および管内新規就農者計13名が出席した。

研修会は貼雑デザイン事務所の代表 角田誠氏に講演いただいた。農産物に特化したパッケージデザインの紹介の他、セールスデザインとロゴデザインの違いなどの説明があった。

研修終了後には実際のラベルなどを手に取って見ることができ、参加者からは、「考え方が役に立った」、「デザインの事について勉強できてよかった」という感想があがっていた。

当課では、今後も新規就農者研修会および女性農業者交流会を計画しており、管内の農業者同士の繋がりをつくり栽培技術の向上を後押ししていきたい。



研修会



実際の商品の紹介

## 4. 種ショウガ生産者栽培説明会を開催

4月25日、JAわかやまグリーンステーションにおいて、JAわかやま、JA農業振興センター、農業試験場担当者とともに、今年度種ショウガ栽培に取り組む生産者を対象として、栽培説明会を開催した。

この取り組みは、新ショウガ栽培の種ショウガのほぼ全てが県外産地からの購入であるため、和歌山市内の水田転換園や山間部で種ショウガを栽培し、一部自給を目指して進められているもので、本年で4年目となる。

この日は、生産者5名に対し、当面の栽培ポイントと種となるショウガの選別や分割方法の説明を行った。特に、生育初期の土壌水分を維持して初期肥大を進めることの重要性を呼びかけた。

参加した生産者らは、4月下旬から5月上旬に順次、植え付けを進める予定。

今後は、和歌山市種生姜生産促進協議会（和歌山市、JAわかやま、JA農業振興センター、和歌山県で構成）のメンバーで定期的に巡回指導や研修会を行い、さらに良質な種ショウガ生産を目指していく。



栽培説明会



昨年度和歌山市内で生産し、  
今年度植付け予定の種ショウガ

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会が総会、研修会を開催

4月26日、那賀振興局において那賀地方生活研究グループ連絡協議会の総会・研修会が開催され、会員56名と関係者が出席した。議案はすべて原案どおり可決され、役員改選では紀の川市の坂口富子氏が会長に再選された。

総会後の研修会では、県福祉保健部ねんりんピック担当参事 西川隆博氏から「ねんりんピック紀の国わかやま2019について」と題した講演が行われた。

西川氏から、ねんりんピックでは1万人以上が来県し地域への経済効果が非常に大きいこと、また来県者は時間と金銭的に余裕のある方々で地元のお土産を購入するのを非常に楽しみにしていることなどが紹介された。

また、ねんりんピック後にも県内ではビックイベントが次々と開催されることから、このチャンスを逃さずに地域の魅力をPRし、各地域のファンを増やしてほしいと話があった。

ねんりんピック期間中、多くの会員が地域でのおもてなしに協力することもあり、出席した会員達は熱心に聴講していた。

講演後、会員からは、「加工品づくりに携わっている会員も多いので、ねんりんピックやそれに続くイベントの恩恵を受けるべく、それぞれが努力していきたい」との声が聞かれた。

農業水産振興課では今後も、地域農産物を使った加工品開発の取組等を支援し農村女性活動の活性化を図っていく。



会長に再選された坂口富子氏

講演する西川隆博氏



### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催

4月16日、伊都地方農業士連絡協議会（廣田哲也会長）が、伊都振興局において総会及び研修会を開催した。会員ら40名の出席があり、退任する農業士や新規認定者からの挨拶に続いて、総会では全ての議案が原案どおり可決、承認された。役員改選では、森口佳幸氏（橋本市）が新会長に選出された。

研修会では、県観光交流課の森下元喜副主査から「青年海外協力隊派遣体験談」と題して講演があり、青年海外協力隊の目的、派遣前の訓練、派遣先であるフィリピンのキシホール島での任務、人々の生活の様子などが紹介された。また、派遣を通じて得たこととして、①日本について考える機会となったこと、②国際交流の楽しさと難しさ、③積極的な姿勢の大切さ、④自身の生き方に対する新たな考えなどについての話があった。農業士らは、フィリピンの田舎の人々の衣・食・住や生き様の違い、異文化を体験したことによる考え方の変化など、普段直接知る機会がない貴重な体験談に熱心に聞き入っていた。

農業士会では、今後も農業以外の異分野、国際化の情報に触れる機会づくりにも取り組んでいく。



退任する農業士の挨拶



廣田会長の挨拶



新規認定者の挨拶



講演する森下副主査

## 2. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会総会、研修会の開催

4月23日、伊都地方生活研究グループ連絡協議会（小西教子会長）が伊都振興局において平成31年度総会及び研修会を開催した。来賓に岡本章九度山町長、伊都振興局山本局長をはじめ、市町担当課長をむかえ、会員30名と関係者が出席した。

議案はすべて原案どおり可決され、今年度も食育ボランティア活動などを実施していくこととなった。

研修会では、橋本保健所衛生環境課三木田宗紀主任から「食品衛生法改正について」と題して、食品衛生法改正に伴うHACCPの義務化について講話を受けた。

会員からはHACCPに関する質問のほか、野外イベントでの加工品の販売についての質問があり、食品衛生への関心の高さがうかがえる研修であった。



総会



研修会

## 3. 農業技術講習会野菜コースの開催

4月23日、伊都振興局において農業技術講習会野菜コースを開催し16名が出席した。本講習会は平成19年度から開催している退職帰農セミナーから数えると13年目となる。

本講習会の対象者は、就農意欲のある退職後数年以内の方や新規に就農を希望する方で、果樹（柿基礎）、果樹（柿専門）、野菜、花きのコース別に実施する。今年度の受講申し込み者数は、全コースで50名（柿基礎10、柿専門13、野菜19、花き8）となった。

今回の講習会では、農業水産振興課の福塚主査から野菜栽培の基礎として、農薬・土壌・年間作付体系について、栽培各論では夏秋野菜

（トマト・ナス・キュウリ・ピーマン）の栽培技術、病虫害各論では主に病害の症状や具体的な防除法の説明を行った。

今回は講義中心であったが、今後、先進農家の見学や育苗実習を実施していく。



講習会

## IV 有田振興局

### 1. 平成31年度有田地方農業士協議会総会を開催

4月18日、有田市星尾の鮎茶屋において平成31年度有田地方農業士協議会（嶋田勝彦会長）総会が開催され、各市町から農業士及び関係者併せて約60名が出席した。当日は、総会において平成30年度事業経過報告と収支決算報告、平成31年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認された。役員改選では新会長に森田耕司氏（有田川町）が選出された。

総会終了後に開催された研修会では、有田川町在住の株式会社 わかるとできる 代表取締役社長 裕弘一 氏から、20年前に一人でパソコン教室「わかるとできる」を起業、国内最大規模まで成長させた実績をもとに、社長の考え方・行動が、従業員のやる気や取引企業からの信頼につながることを具体的な事例で、ユーモアを交えてわかりやすく説明していただいた。

意見交換では、同年代の農業士から「いまの仕事は何歳まで続けられると考えているか。後継者の育成は？」、「現在のような考え方に変わったきっかけは何か」など、予定した時間を超過するほど熱心な質疑応答が行われた。



総会



(株) わかるとできる 裕弘一 氏（中央）  
との意見交換

## 2. 平成 31 年度有田地方 4 H クラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催

4月22日、有田振興局において平成31年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会が開催され、各市町から4Hクラブ員及び関係者併せて34名が出席した。当日は、総代会において平成30年度事業経過報告と収支決算報告、平成31年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に有田市4Hクラブの成川僚氏が就任した。

総代会終了後に開催された技術交換大会では、クラブ員が農業分野から出題されたペーパーテストに挑戦し、日頃の活動で身につけた知識を競い合った。採点の結果、団体の部では、広川町4Hクラブ、個人の部では広川町4Hクラブの伊藤貴章氏が第1位となった。

本大会における成績優秀者は、5月14日に県農業試験場暖地園芸センターで開催される平成31年度和歌山県農村青少年技術交換大会に有田地方の代表として参加する。

また、技術交換大会終了後は、参加者らが4グループにわかれ、今年度の活動内容について意見交換を行った。県外視察、農業用機械の安全講習、クラブ員同士の園地視察等、様々な意見が出された。農業水産振興課では、こうした意見を踏まえながら、今年度の活動支援をしていきたい。



総代会



技術交換大会

## V 日高振興局

### 1. 平成 31 年度日高地方農業士会総代会及び研修会を開催

4月16日、日高振興局別館大会議室において、平成31年度日高地方農業士会総代会及び研修会が62名の参加を得て開催された。

はじめに、平成30年度新たに農業士に認定された18名の新会員の紹介が行われた。次いで総代会が開催され、事業経過と会計報告、新年度の事業計画案と収支予算案について審議され、原案どおり承認された。役員改選では、新たに御坊市指導農業士の山田裕司氏が会長に選出された。

総会後に研修会が開催され、農業水産振興課から普及指導計画6課題について、平成30年度の普及活動状況報告を行った。また、新田普及指導員から「スマート農業について」と題した情報提供を行い、参加者は興味深そうに聞いていた。



農業士認定者の紹介



研修会の状況

### 2. 平成 31 年度日高地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催

4月18日、日高地方生活研究グループ連絡協議会(後藤明子会長)が、日高振興局別館で平成31年度総会及び研修会を開催し、会員及び関係者を含め24名が出席した。

総会では、平成30年度の事業経過報告・収支決算報告・会計監査報告と平成31年度事業計画(案)・収支予算(案)が審議され、すべて原案どおり承認された。また、平成30年度のシカレディース活動と食育活動報告も行われた。

総会終了後の研修会では、リメイク缶を使った多肉植物の寄せ植えを行った。会員らは、講師の尾藤美雪氏から多肉植物の植え方の説明を聞いた後、用意されたリメイク缶に色や形、大きさが違う多肉植物を丁寧に植えた。会員からは、「多肉植物を植えるのは初めて」、「可愛くできたので嬉しい」などの感想があり、楽しい研修会となった。



総会



研修会

### 3. 平成31年度日高地方4Hクラブ連絡協議会総会および「農トレ!ひだか」第1回セミナーを開催

4月22日、印南町公民館2階大ホールにおいて、平成31年度日高地方4Hクラブ連絡協議会総会が開催され、会員19名が出席した。

総会では、平成30年度の事業経過報告や収支決算報告、平成31年度の事業計画や収支予算についての審議がなされ、いずれも承認された。また、役員改選が行われ、新役員として、会長に堀昇平氏（御坊市4Hクラブ）、副会長に新谷力氏（印南町4Hクラブ）、会計に久保隆治氏（みなべ梅郷クラブ）が就任した。

総会後には、4Hクラブ員や管内で農業を始める予定の方などを対象に、農業の基礎知識や技術の修得を目的とした研修会「農トレ!ひだか」を開催した。

今回は、今年度第1回目にあたり、農業水産振興課の地坂主任が、鳥獣害対策についての講演をおこなった。管内ではサル、シカ、イノシシによる農作物への鳥獣被害が深刻化する中、被害の現状や被害軽減のためには地域全体で取り組むことの重要性を伝えたほか、捕獲も対策として有効であるため、狩猟方法や狩猟免許に関する情報提供を行った。狩猟免許を持っているクラブ員が少なかったため、皆熱心に聞いていた。

当課では、クラブ員や新規就農者に対して農業知識・技術の修得に向けた本研修会を引き続き実施していく。



新役員の挨拶



鳥獣害対策について学ぶクラブ員ら

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

#### ～ウメの摘心処理講習会を開催～

ウメ「南高」の着果安定を目的に、4月22日、24日、26日に摘心処理講習会を田辺市新庄町、中三栖、上芳養、秋津川の4地区で開催した。摘心栽培に関心のある生産者23名とJA紀南営農指導員6名が参加した。

摘心処理は4月下旬と5月中下旬の2回、新梢を10cm程度残して摘心することで花芽数が増加し、結果層が増えるとともに、徒長枝本数が減少するため、せん定作業の省力化が期待できる。しかし、「5月中下旬の2回目の処理が農繁期で取り組みにくい」と労力面での課題があり導入面積が伸び悩んでいる。

そこで、技術実証園や展示園において、昨年から充電式電動バリカンを用いて省力的に摘心処理を行えることを紹介し、取り組み面積の拡大を図ってきた。

摘心樹と慣行樹の着果状況の違いを確認したうえで、垂主枝や側枝の背面から発生した新梢の先端部分を、前田普及指導員がバリカンで刈っていく方法を実演した。数人の生産者も体験し、「これなら作業は簡単だし、時間もかからず取り組み易い」、「充電式電動バリカンの使用可能時間はどれぐらいか」などの感想や質問があった。当課では、JA紀南やうめ研究所と連携して、ウメの生産安定につながる摘心処理技術の導入推進にむけた普及活動を継続して実施していく。



摘心処理を実演（中三栖）



生産者が体験（新庄町）

### 2. ヨモギ栽培実証展示園で収穫始まる

4月16日、すさみ町に設置しているヨモギ栽培実証展示園で初めての収穫を迎えた。ヨモギは紀南地方でよもぎ餅に活用されているが、近年、シカの食害により、自生するヨモギは減少している。一方、山間部は耕作条件の悪い農地が多く、耕作放棄地が増えている。そこで、農業水産振興課はこのままでは耕作放棄地となる、あるいは既に耕作放棄地となった農地に、手間をかけないヨモギ栽培の実証を行い、昨年からの普及性について検討している。

よもぎ餅を製造販売している指導農業士の抜田氏の協力を得て、奈良県の深吉野ヨモギ生産組合からオオヨモギ地下茎を購入し平成30年3月7日に定植した。

定植後の主な栽培作業は除草、施肥、冬期に枯れた地上部の剪除であり、労力がかからないことと収穫効率が良いことが魅力である。

当課では、今後も極力手間をかけない栽培方法を実証し、栽培拡大に向けた普及活動を関係機関と連携しながら実施していく。



栽培圃場（平成 30 年 4 月）



収穫前の草姿（平成 31 年 4 月 16 日）

### 3. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月17日、西牟婁地方農業士連絡協議会（木村則夫会長）は、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、会員及び関係者等約70名が出席のもと、総会並びに研修会を開催した。

今回の役員改選により、廣畑幸男氏が会長に就任し、新体制でスタートすることになった。会員は145名。

研修会は、3月末に定年で退任となった元指導農業士の下畑千秋氏から「私の農業今までとこれから」と題し、これまで取り組んできた農業への思いや将来への意気込み、女性部会活動での思い出等について講演があった。また、果樹試験場 栽培部 田嶋主査研究員から「西牟婁地方におけるカンキツの有望品種」と題し、県育成の有望中晩柑品種「はるき」の特性等について講演があり、会員は熱心に聴き入っていた。

総会・研修会後に行われた意見交換会では、講演の内容を参考に活発な意見交換が行われた。



総会（木村会長挨拶）



新役員紹介





研修会（講師：下畑千秋氏）



研修会（講師：田嶋主査研究員）

#### 4. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会が総会・研修会を開催

4月24日、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会（森川敏子会長）は、西牟婁振興局において、22名の会員出席のもと、総会および研修会を開催した。

総会では、平成30年度事業報告及び平成31年度事業計画(案)ともに原案のとおり承認された。

研修会では、食と環境アドバイザーの中尾卓嗣氏から『食でつなげる人 未来』～農林業漁業者が創造する価値～と題した講演を聴いた。

講演は中尾氏と会員との掛け合いもあり、にぎやかな雰囲気が進む一方で、子供たちのお弁当作りの話題では笑いあり、涙ありの内容で会員は熱心に中尾氏の話に耳を傾けた。中尾氏は、『食』が子育てに深くかかわっていること、食材を生み出す農林水産業者の地域における役割は大きいことを熱弁され、会員に「食をとおして地域で子どもたちを育てて欲しい」とメッセージを送った。会員は、食の役割を再認識し、今後の会活動への意欲を高めた。



総会



中尾氏の講演を熱心に拝聴

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 東牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月11日、東牟婁地方農業士連絡協議会（杉浦仁会長）は、休暇村南紀勝浦において、会員及び関係者等約22名出席のもと、総会並びに研修会を開催した。

総会では、平成30年度事業経過と収支決算、平成31年度事業計画と収支予算、役員改選が議案どおり承認された。その後、青年農業士から地域農業士となった松本安弘氏が紹介され、農業にかける思いなどについて述べた。

研修会では、和歌山県農業共済組合南部支所普及推進課 植西和弘主幹から「収入保険制度」、みくまの農業協同組合融資課 石坪義孝課長から「農業関係融資」、営農販売課 清水重良次長から「鳥獣害対策」、また、農業水産振興課 浅井普及指導員から「農業発展サポーター事業」について話題提供があった。

当課では、地域で農業のリーダーとして活躍する農業士の活動を支援していく。



総会



研修会

### 2. 三津ノ地域活性化協議会が田植え体験を開催

4月25日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）及びJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町の水田（7a）で近畿大学附属新宮中学校1年生（34人）を対象に田植え体験を開催した。これは、生徒たちが農作業体験を通じて農業や食物に関心を持ち、その大切さを知ってもらうことを目的としたもので、平成29年から実施している。

会長挨拶の後、当課の木村技師から水稻の品種や栽培面積、種籾を蒔いてから収穫までの作業等について説明を行った。続いて協議会メンバーらが苗の植え方等を説明し、生徒全員が横一列に並び1人4条程度を植えた。

生徒からは、「田植え（手植え）はたいへんや」、「立派に育てほしい」、「これからはお米を残さず、農家の人に感謝しながら食べたい」等の声があり、農業や食物に関心を持ってもらうことができた。

8月下旬には、今回田植えしたほ場で収穫体験を行い、収穫した米は文化祭で「近中米」として販売されるほか、新入生が入学した際に実施される合宿で利用される予定である。



米作りの説明



田植え

## VIII 農林大学校 農学部

### 1. 6次産業化を目指して ～アグリビジネス学科で観光農園を開園～

農林大学校農学部では、学生が自ら課題解決を図る能力の習得を目的として、プロジェクト学習を実施している。アグリビジネス学科（2年生、5名）では、学生の発案により前年度から農業の6次産業化を目指して観光農園の経営をテーマに取り組んでいる。

学生らは校内での開園に向けて、これまでに近隣の観光農園を訪れて経営者から話を聞いたり、インターネットを利用するなどして情報収集を行い、話し合いを重ねながら準備を進めてきた。

4月5日には、事前に募集した一般消費者2組8名を校内のハウスに迎え、イチゴ狩りの観光農園を実施した。運営は受付や会計、案内、アンケートなどを分担してすべて学生が行い、無事に営業を終える事ができた。

実施後の話し合いでは、「もっと来場者を増やしても良かった」「説明が伝わっていなかった」「学生同士の情報共有が必要」など多くの気づきや反省点があげられ、改善方法が議論された。次回の観光農園は8月上旬にブルーベリー狩りを開催予定。



収穫の方法などを説明



終了後に感想を聞き取り

### 2. 平成31年度 入学式

4月11日に入学式を行い、園芸学科17名が入学した。式辞で崎校長は、自ら学ぶ積極的な姿勢を持ち、社会や人との円滑な関係作りを行い、目標をもって2年間を過ごしてほしい



崎校長の式辞



宣誓する新入生代表

と新入生を激励した。

また、新入生代表の三澤桃加さんが、農業の基礎知識や栽培技術、経営能力を習得することを誓いますと述べた。

学生は、講義や実習に加え先進農家や試験場等での研修を行っていく。

### 3. 1年生が県内7か所の試験研究機関で研修

1年生は、4月18日と19日の2日間で、県内の農林業関係の試験研究機関（果樹試験場かき・もも研究所、農業試験場、果樹試験場、果樹試験場うめ研究所、林業試験場、畜産試験場、農業試験場暖地園芸センター）を訪れた。各試験場では、取り組んでいる試験研究内容の説明を受け、その後は場見学を行った。学生らは和歌山県農林業の特徴、新品種育成への取組等について熱心に聴講した。

また、入学後間もない2日間を共に過ごすことにより、相互の親睦や連帯感が深まり有意義な研修となった。



森口所長による説明（かき・もも研究所）



研究内容を聞く(果樹試験場)

## IX 経営支援課（農業革新支援センター）

### 1. 和歌山県農業士会連絡協議会が総代会・研修会を開催

4月22日、県内各地の農業士で組織する和歌山県農業士会連絡協議会（山崎明会長）の平成31年度通常総代会及び研修会が和歌山県JAビルで開催された。

今年度は役員改正が行われ、新たな会長には岡田敦雄氏（みなべ町 指導農業士）、副会長には中浴泉氏（紀の川市 指導農業士）、吉本久美氏（和歌山市 指導農業士）、木下善久氏（橋本市 地域農業士）、玉置貴啓氏（田辺市 青年農業士）が就任した。

研修会では、大阪高島屋などで高級フルーツを使ったギフトショップや飲食店などを展開している株式会社大和果園のプレミアムショップ THE KAEN 店長の内田欽也氏を講師に招き、「これからのフルーツのお話をしましょう」と題して講演が行われた。

講演では、現在の売れ筋果物や、一玉1,800円で販売されている和歌山県内産のネーブルの話などが紹介され、質疑応答では、市場仕入れと農家からの直接仕入れの割合、輸送方法などについて質問が出され、参加者の関心の高さがうかがわれた。

経営支援課では、今後も研修会などをとおして、各地域で農業のリーダーとして活躍する農業士会活動を支援していく。



岡田新会長（中央）



講師の内田氏

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489